



特集

# 名張にも戦争があった 未来につなぐ平和のバトン



広島原爆被災地、名張にB29戦闘機が墜落したことなど映像を交えながら、「翼をください」「いのちの歌」など平和を願う歌を歌い、生徒に思いを伝えている。

戦争体験者の話を聞ける機会が減る中、体験者の思いを受け継ぐと活動している人たちがいます。その一つが、次の世代に語り継ぐため、市内の中学生に非核平和コンサートを開催している箕曲コーラス「ラ・ペスカ」の皆さん。戦争を知らない世代へ思いをつないでいます。

### ◆被弾ピアノの出会い

「被弾ピアノが朽ち果てていく様子を見るのは、悲しくてかわいそう」被弾ピアノを初めて見たときにそう感じました。

70年前、戦争で銃撃にあった蔵持小学校の被弾ピアノは、いつしか音楽室の隅で使われずに置かれていました。その後、戦争の悲惨さを伝える平和の象徴として、武道交流館い



箕曲コーラス「ラ・ペスカ」代表 中井千明さん



蔵持小学校の被弾したピアノ。側面から裏に弾が貫通した。現在、武道交流館いきいきに展示されている。

### ◆次世代に命の大切さを

平成22年からは、市の委託を受け、市内の中学生に伝える非核平和コンサートを実施。今では直接中学校から依頼を受けるようになりました。「命を大事にしたい」「後輩にも伝えてほしい」などの感想を聞くと、この活動が少しでも役に立っていると感じます。中学生の皆さんは、さまざまな悩みを抱えていると思いますが、命を大切に、家族を大切に考えるきかっけになってほしいと思います。

### ◆平和コンサートを実現

被弾ピアノコンサートを初めて開催したのは平成18年。最初は被弾ピアノの演奏と共に歌いましたが、運搬と調律が難しいため断念。試行錯誤を繰り返しながら、コーラスだけでなく、音楽や映像、朗読などさまざまな分野の人たちのつながりで、平和の大切さを伝えるコンサートの形ができるようになりました。

私たちも戦争を体験していませんし、偉そうに話せる立場でないのですが、私たちにできることを探し、実際に広島の平和公園などを見学し、グループで学習会も積極的に行っています。



## 未来への想い

毎年、広島へ修学旅行に行く名張中学校2年生。現在、平和学習を進めています。非核平和コンサートを聞いた皆さんにインタビューをしました。

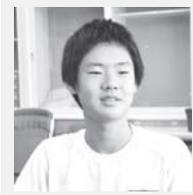


### 山浦 拓真さん

音楽や映像を見て、戦争の恐ろしさが分かりました。失うことばかりの戦争をする必要があるのかと思います。戦争がいけないことを伝えて、二度と起こらない社会にしていきたいです。

### 栢森 桃子さん

命の大切さをあらためて考えました。戦争は体験した人の心にいつまでも記憶として残っていると知りました。日本が抱えた悲しい過去を広島で深く学びたいと思います。



### 相澤 正汰朗さん

蔵持や赤目で空襲があったということを初めて知りました。身近な場所で戦争があったと思うと無関心ではいられません。亡くなった人それぞれに人生があったと思うと悲しくなりました。

### 鉢窪 幸平さん

世界では今でも戦争をしている国があります。自分が大人になったとき、戦争は絶対にしたくありません。争いが続く国も、早く安心で安全な暮らしができるようになってほしいです。

